



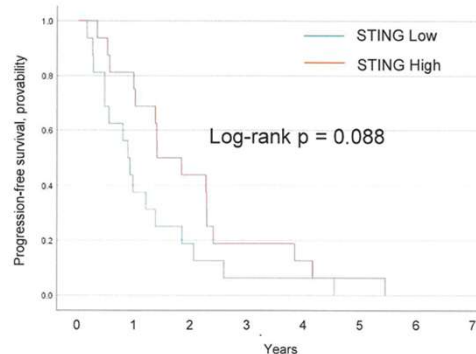
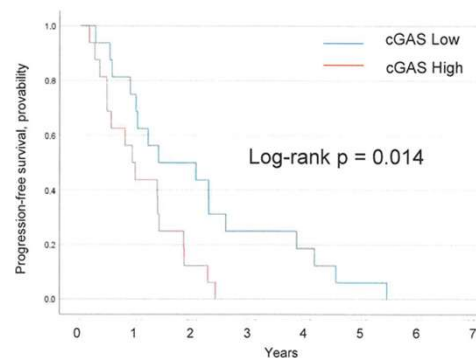
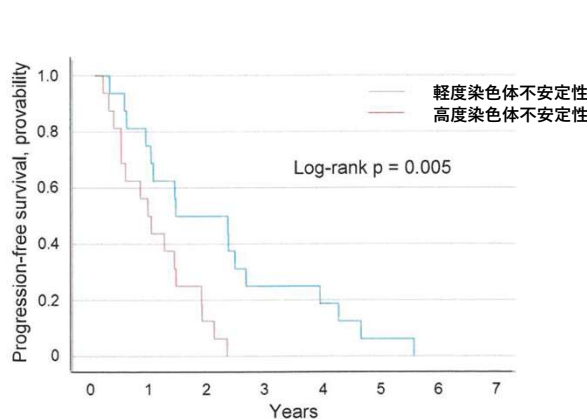
染色体不安定性に関するバイオマーカーを用いたEGFR阻害剤の 治療効果予測

キーワード

肺癌、EGFR変異、染色体不安定性、cGAS、STING、EGFR阻害剤

【研究内容の概要】

EGFR遺伝子変異肺癌ではEGFR阻害剤が標準治療で。しかしその効果は個々の症例において異なる。今回の研究で染色体不安定性、あるいはそれに関連するcGAS遺伝子発現、STING遺伝子発現によりEGFR阻害剤の効果が予測できる。



32例のEGFR遺伝子変異肺癌症例についてEGFR阻害剤治療を行った際の無増悪生存期間と各バイオマーカーとの関係を示す。

特徴／効果

- ・EGFR遺伝子変異肺癌ではEGFR阻害剤が標準治療であるが、必ずしもすべての症例で長期間奏効するのではない。
- ・染色体不安定性、あるいはcGAS遺伝子、STING遺伝子を調べることで治療前に阻害剤治療の効果が予測できる。

利用／用途

- ・肺癌患者の治療薬の選択に利用できる。
- ・例えばEGFR阻害剤だけでは治療効果が乏しいことが予測された場合、他剤(いわゆる抗癌剤など)を併用し治療強度を高めることが有用と予想される。

知的財産権等情報

医学部 医学科

米阪 仁雄

特許出願

特開2025-118581

URL

論文等

準備中

連絡先：近畿大学 リエゾンセンター(KLC)

〒577-8502 大阪府東大阪市小若江3-4-1

TEL：06-4307-3099 FAX：06-6721-2356

E-mail：klc@kindai.ac.jp

URL：http://www.kindai.ac.jp/liaison/